



# インドネシアの森を守る

Vol.1 2024年12月発行

エイピーピー・ジャパン株式会社  
ユニバーサル・ペーパー株式会社

## 「森の再生プロジェクト～いっしょにSDGsに取り組もう！～」とは



森林に恵まれた国インドネシアでは、火災による森の荒廃が止まりません。貧しい農民が生活のためにやむなく森に火をつけて、焼け跡で畑を耕す「焼き畑」が時に森林火災を引き起こすからです。

その荒れた森に木の苗を植えて、成長するまで何年も見守ることで元の森に戻す取り組みが「森の再生プロジェクト～いっしょにSDGsに取り組もう！～」(以下、森P)です。

プロジェクトのロゴマークがついた紙製品や(お菓子などの)紙パッケージを買ったとき、その売上の一部が活動に寄付されます。

ロゴマークがついた紙の多くは、インドネシアで自然の森を減らさ

ないように「木の畑」で植林された木で作られています。2020年に始まったプロジェクトは、だんだんと賛同者が増えて今ではさまざまな会社や個人も参加しています。

一方で、この活動には課題もあります。現場では未だに焼き畑が行なわれているので、植えた苗を守るためにパトロールが必要です。また、せっかく苗を植えても約2割は枯れてしまうので、定期的に植え直しをしています。



苗を植えた現場の様子  
(2022年)  
整地した土地に5m間隔で線を  
引き、苗をその線上に植えてい  
くライン造林法を採用している

森P現場での記念植樹の様子  
(2023年)  
日本の高校生とインドネシアで  
活動するボランティア環境保護  
基金のドリー博士



## スマトラゾウも守ろう

森Pの現場であるリアウ州(スマトラ島)の森では、絶滅危惧種のスマトラゾウも生息しています。

森が荒れると、ゾウは食べ物に困って近隣の畑を襲います。ゾウを脅威に感じている農民は、群れから離れた孤独なゾウを攻撃してしまうため、リアウ州の森林管理事務所はそうしたゾウを保護しています。

スマトラゾウと地域の人々が共存していくためにも、森の再生は必要なのです。



保護されたスマトラゾウと触れ合う  
(2024年)  
日本の高校生と先生による森Pの現場訪問時に

# 森P いろいろな対象製品があります 探してみてください！



## 森Pが貢献するSDGsの目標

- 12番 つくる責任 つかう責任**  
12 つくる責任 つかう責任  

 紙をつくる会社と紙をつかう皆さんと一緒に取り組む活動です。
- 13番 気候変動に具体的な対策を**  
13 気候変動に具体的な対策を  

 植えた苗が木に成長することで、二酸化炭素が吸収されます。
- 15番 陸の豊かさも守ろう**  
15 陸の豊かさも守ろう  

 スマトラゾウを始め、絶滅が危惧される希少な動植物を守ります。
- 17番 パートナーシップで目標を達成しよう**  
17 パートナーシップで目標を達成しよう  

 会社、環境団体、地方政府、専門家、地域住民の皆さんと協力しながら実施しています。

## 森Pの現場をのぞこう on YouTube



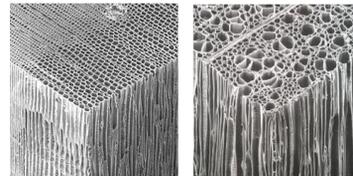
現場へは、森の中を車に揺られながら向かいます。  
雨が降ると、道がぬかるんで車が進まないことも。



森を抜けて視界が開けると、そこは森が焼かれた跡でした。すでに一部はパームやし植えられていました。

## 紙は木からどうやって作られる？

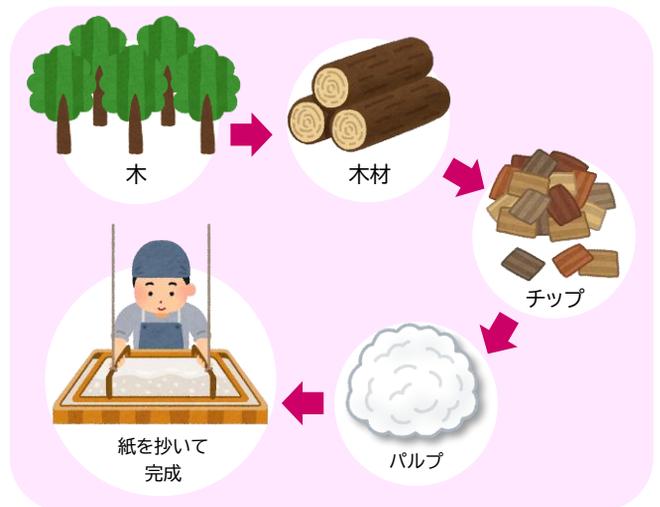
木の中身は、土から養分や水を吸い上げる管や、その管を支える糸状の素材(繊維)が集まってできています。この繊維の束が接着剤のような物質(リグニン)で固められています。



けんぴ鏡で見た木の断面  
 左: 針葉樹  
 右: 広葉樹  
 出典: ニシザキ工芸(株)  
 塗装部 工房日誌2

紙を作るには、木を細かく砕いてチップ状にします。この木材チップを煮込むと、リグニンが溶けて繊維を取り出すことができます。その後、繊維を洗って漂白すると、紙の原料であるパルプとなります。

このパルプを水で抄いて、乾かすと紙が出来上がります。昔は人が一枚ずつ抄いていましたが、今では大きな機械を使って一度に大量の紙を抄くことができます。



森の再生プロジェクト～いっしょにSDGsに取り組もう！～  
 最新情報はこちら ▶ <https://forestrestorationjp.belantara.or.id/>  
 この新聞に関するお問い合わせはこちら ▶ [sustainability@appj.co.jp](mailto:sustainability@appj.co.jp)



「インドネシアの森を守る」  
 Vol.1  
 2024年12月発行